

1 破傷風[Tetanus]

破傷風は世界中の土壌に存在し傷口から感染する。

昭和43年以前生まれの方は小児期に接種したことがないので、1ヶ月間隔で2回接種し、約1年後(6ヶ月～2年)に1回追加接種をする。10年間有効

昭和44年4月以降の生まれの方は小児期に破傷風を含むDPT(ジフテリア:Diphtheria、百日咳: Pertussis、破傷風:Tetanus)を接種しており、1回追加接種をする。1回で10年効果は延長する。

海外渡航の滞在国、目的により、輸入Tdap(成人用三種混合ワクチン)、DPT(三種混合ワクチン)またはポリオも含んだDPT-IPV(四種混合ワクチン)をお勧めすることもあります。

輸入ワクチンは国内未承認のため副反応が生じた場合は輸入ワクチン補償制度を利用する。

2 A型肝炎[Hepatitis type-A、Hep-A]

A型肝炎は食べ物から感染する病気でアジア、アフリカ、中南米に広く存在する。

2～4週間隔で2回接種し、6ヶ月後(3ヶ月～2年)に1回追加接種をする。

2回接種で約2年、3回で約5～10年間有効。

短期間の出張や旅行で出発まで日にちのない方は、1回接種で出発し、帰国後続きを接種する。

※出発が2週間以内で国産のA型肝炎の2回目が接種できない方、海外で追加接種が必要な方、免疫を長く持たせたい方には、輸入A型肝炎がお勧め。1回接種後、6～12ヶ月後に2回目接種。

2回の接種で20年間効果が持続する。

3 B型肝炎[Hepatitis type-B、Hep-B]

B型肝炎は主に血液を介しての感染であるが、唾液、体液からの感染もありアジアを中心に広く存在する。発展途上国に長期滞在する場合は接種を推奨。

4週間間隔で2回接種し、6ヶ月後(3ヶ月～2年)で追加接種する。3回接種で5～10年間は有効。

4 日本脳炎[Japanese Encephalitis]

日本脳炎は日本脳炎ウイルスを保有する蚊に刺されることによって起こる重篤な急性脳炎で、死亡率が高く、後遺症を残すことも多い。アジア地域(西はインド、東はパプアニューギニア)では必要。

小児期に3回以上接種していれば20～35歳までは1回追加、35歳以上は2回追加接種する。

小児期の接種が未接種または不明の場合は、1～4週間隔で2回接種し、約1年後(半年～2年後)に1回追加接種すれば、5～10年間は有効である。

5 狂犬病[Rabies]

狂犬病はヒトを含めほとんどのほ乳類に感染して致死性の脳炎を発症させる人畜共通感染症。渡航前に2～4週間隔で2回接種し、6ヶ月以降に1回の追加接種をする。ワクチンを接種していても動物に噛まれた場合は直ちに病院を受診し、追加接種が必要。

※輸入ワクチンを用いて、WHO方式(0-7日)で出発までに2回の接種を行うこともできる。

詳細は別紙参照

6 ポリオ、小児麻痺、急性灰白質炎[Polio Myelitis,OPV(oral Polio、Sabin)、IPV(Salk、Sabin)]

ポリオはポリオウイルスによって急性の麻痺が起こる病気。アフリカ、中近東、南西アジアでは接種を推奨。現在日本では不活化ポリオ(IPV)にて接種。

昭和50年～52年生まれの方は小児期にワクチン接種しているが免疫が低いので追加接種が必要。

7 黄熱[Yellow Fever]

アフリカや南米の一部の国で必要。入国10日前までに接種する。生涯有効。

中部空港(セントレア)検疫所支所(0569-38-8205:火曜日 13:00～)で接種できる。

(※事前に予約が必要です)

8 腸チフス[Typhoid Fever]

腸チフスは食べ物から感染する病気で、アジア、東欧、中東、アフリカ、中南米などで流行している。

国内で承認されているワクチンが無いため、輸入ワクチンで当院は対応。

出発2週間以上前に1回接種。2～3年は効果あり。

9 髄膜炎菌[Meningococcal Meningitis]

髄膜炎菌による髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎)は世界中どこでも流行するが、アフリカ(サハラ砂漠の南方)で流行がある。サウジアラビアではメッカ巡礼の入国の際に接種が義務付けられている。海外留学で寮生活をする場合にも接種を求められることがある。1回接種。

10 麻疹(はしか)[Measles]・風疹[Rubella]・おたふくかぜ[Mumps]・水痘(水ぼうそう)[Varicella、Chickenpox]

アジアでの麻疹の流行など、国内外で流行がみられる。感染を防ぐには検査をして、抗体が陰性のものはワクチン接種が有効。

11 インフルエンザ[Influenza]

現地での流行時期を考えて、接種できる時期なら接種を勧める。